



2017/7/3

## トンガレポート &lt;5&gt;

青年海外協力隊 シニアボランティア  
2016年度 2次隊 卓球隊員 西岡 昌彦

皆様お待たせしました。いよいよ今回は「トンガの卓球事情」について紹介します。

基本的にトンガには卓球台は「ない」と思っていたのですが、限られた場所に限られた台数しかなくトンガ滞在9か月で確認できたのはわずか6台です。しかも台の状態について完璧なものは1台もなく「まあ、これなら」と思えるものは半分の3台です。日本では見たこともないタイプの台もあり驚いた反面、新たな知識の習得となりました。

そのような環境のもとでも卓球（※ピンポン）をしようと試みるのは、「手軽」で「楽しく」世界中どの国や地域でも「愛される」競技である証拠でありそれを教えることに携わっている私は幸せと誇りを感じています。

（※一般の方には混同されてしまいますが「卓球」と「ピンポン」は似て非なるものです。）

## 1、表現の違い

トンガの公用語は「トンガ語」と「英語」で私は主に英語で指導しています。指導にあたり初期の頃「ラケット」を「ラケット」と言っていましたけどどうも相手に通じないことを感じていました。もちろん「ラケット」という単語は存在するのですがその後トンガでは「ラケット」のことを「バット」と言うのが一般的であるということを知りました。

日本で「バット」と言うと野球のバットのように丸い棒状の形を思い浮かべてしまうため当初は違和感を感じていましたが相手に通じなければ意味がないのでその後「バット」という表現に切り替えました。今ではその表現に慣れてしまったため帰国の際、日本の選手に「卓球のバット」と言ったら笑われてしまいそうです。

## 2、小学校訪問①段違いピンポン台！

着任当初はトンガ本島内の小学校を訪問して卓球の紹介をするプログラムがありました。写真は



段違いピンポン台!!!

その際一番驚いたピンポン台です（卓球台は長さ・幅・高さの規格があるためそれ以外のサイズは全てピンポン台）。体操競技で段違い平行棒という呼称は知っていましたが高さの異なる台を並べて1台にするとはなんともたくましい発想であり驚嘆しました。しかも屋外。

実際にこの台を使って打球してみたところ風の影響やネット代わりの木材にボールが当たった時も含めて通常ではあり得ないボールの動きになり返球に苦労しました。日本では決してできない貴重な経験でした。

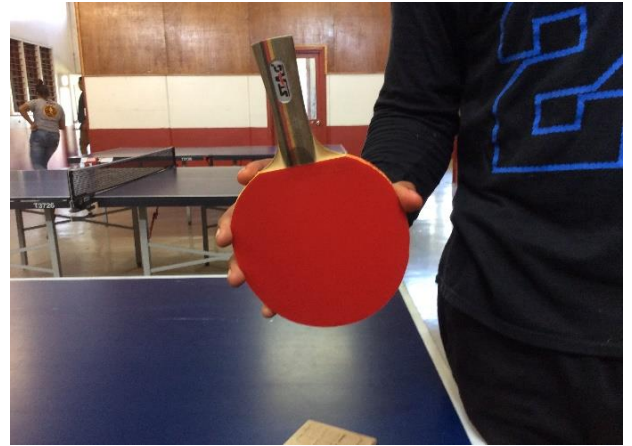
環境は不十分ですが子供たちが楽しむにはこれで充分かなと思いました。

わずかな滞在時間でしたが相手をした子供たちから拍手喝采をいただいて帰ってきました。

### 3、小学校訪問 ②ラケット (バット)

前述でトンガでは「ラケット」のことを「バット」と呼ぶのが普通と紹介しましたが、トンガレポートは日本の皆様にお読みいただくのでイメージしやすいように以降ではあえてラケットという呼称を使用します。

トンガの小学校ではラケットも我々が想像する形状のものはあまり見かけません。



ラケットがないため代用品として左の画像のような床材の破片や木片、あるいはガラス片などを利用して子供たちが屋外で遊んでいる姿を見かけます。それが普通な状況です。床材・木片・ガラス片などボールを返球する際、硬い材質の方が有利ということは子供でもわかっているようです。

次に、代用品の握り方にご注目ください。代用品にはグリップ部分がないのと前方から飛来するボールをとらえるためには飛来線に対し直角を保つため持ち方は「鷲づかみ」です。そして代用品の表面は摩擦力がないため返球の際はひたすら代用品を後方から前方へ押し出す動きをします。

こういった状況が「普通」なため小学校訪問時に、卓球協会のスタッフと正式なラケットを持参してグリップ部分があっても握り方がわからずだまっていると右の画像のように持ってしまうのでまずはそこから教えなければなりません。

なお子供たちがラケットの代用品で遊んでいる適当な画像がありませんでしたので上の2枚の画像はナショナルチームのメンバーに協力してもらったものです。

### 4、小学校訪問 ③青空卓球教室

トンガ卓球協会では卓球人口の増大に向けたまに小学校を訪問して卓球の紹介をします。

しかし、どの小学校にも正式な規格の卓球台はありません。あっても前述のようなピンポン台です。私は卓球台なしで指導をした経験がありませんでしたのでトンガ人コーチの指導方法を見学しました。画像右端がコーチです。そしてコーチも生徒も全員サンダルか裸足です。

この小学校は好意的で我々の訪問に対してホールにあった長椅子を移動して場所を提供していただいたので屋外の強烈な日差しを避けることができやれやれでした。

学校訪問では卓球の指導といっても台がないためできることは限られています。画像はラケットの上にボールを乗せてバランスを取りながらホール内を行き来するといった日本の運動会の種目にあるようなことをしています。





以下3枚の画像でも前述と同様なことをしていますが、「屋外」で行っています。特に左の小学校を訪問した際は炎天下の中、1回30分の指導を学年を変えて3回行い、日差しを避ける場所がなく私は見ているだけで大変でした。



左の画像の小学校を訪問した時の日差しも強烈でした。左端はこの小学校の先生ですが日よけのため頭に緑色のタオルを巻いていますし、長袖の

パーカーを着用してフードを被っている生徒もいます。右の小学校は木陰があるためまだ楽でした。生徒を6~7人のグループに分け、ボールのバランスを取りながらリレーをさせているところです。こうなるとほとんど運動会同様で最後の方になると「勝ち」を意識してボールを手に握ったまま往復する生徒もいましたが全員大興奮でした。本来の目的を逸脱していますが「まあいいか」という状況でした。競わせると子供たちはやる気になるというのはトンガも日本も同じだなと実感できるひとときでした。

小学校訪問では卓球の紹介というより正式なラケットを見たことも触ったこともない子供たちがほとんどのためラケットやボールに慣れ親しんでもらうことが一番の目的になっています。内容には素振りや簡単なフットワークも入っていますがどちらも大変旧式なものです。でも実際に台を使ってボールを打ち合うわけではないのでこれについても「まあいいか」と妥協しました。

今回はトンガの卓球事情について小学校訪問を中心に伝えました。やはり一度ですべてをお伝えすることは無理でした。今後も続けて卓球事情を紹介していきますので次回をお待ち願います。

なお青空卓球教室は昨年11月でトンガは南半球にあるため「夏」でした。7月は「冬」にあたります。日本の方々にとっては椰子の木が生え青い海があり常夏のイメージのトンガですが、参考までにこのところは朝晩「寒く」長袖を着用して毛布をすっぽりかぶって寝ています。